

2023年3月期 第2四半期 決算説明資料



2022年11月7日
株式会社 小森コーポレーション

1. 2023年3月期第2四半期業績および通期計画(P4～34)

取締役管理本部長 橋本 巖

2. 2023年3月期 上期経営概況(P35～48)

代表取締役社長 持田 訓

2023年3月期第2四半期業績および通期計画



2022年11月7日
株式会社 小森コーポレーション

決算概要 P/L

(単位:億円)

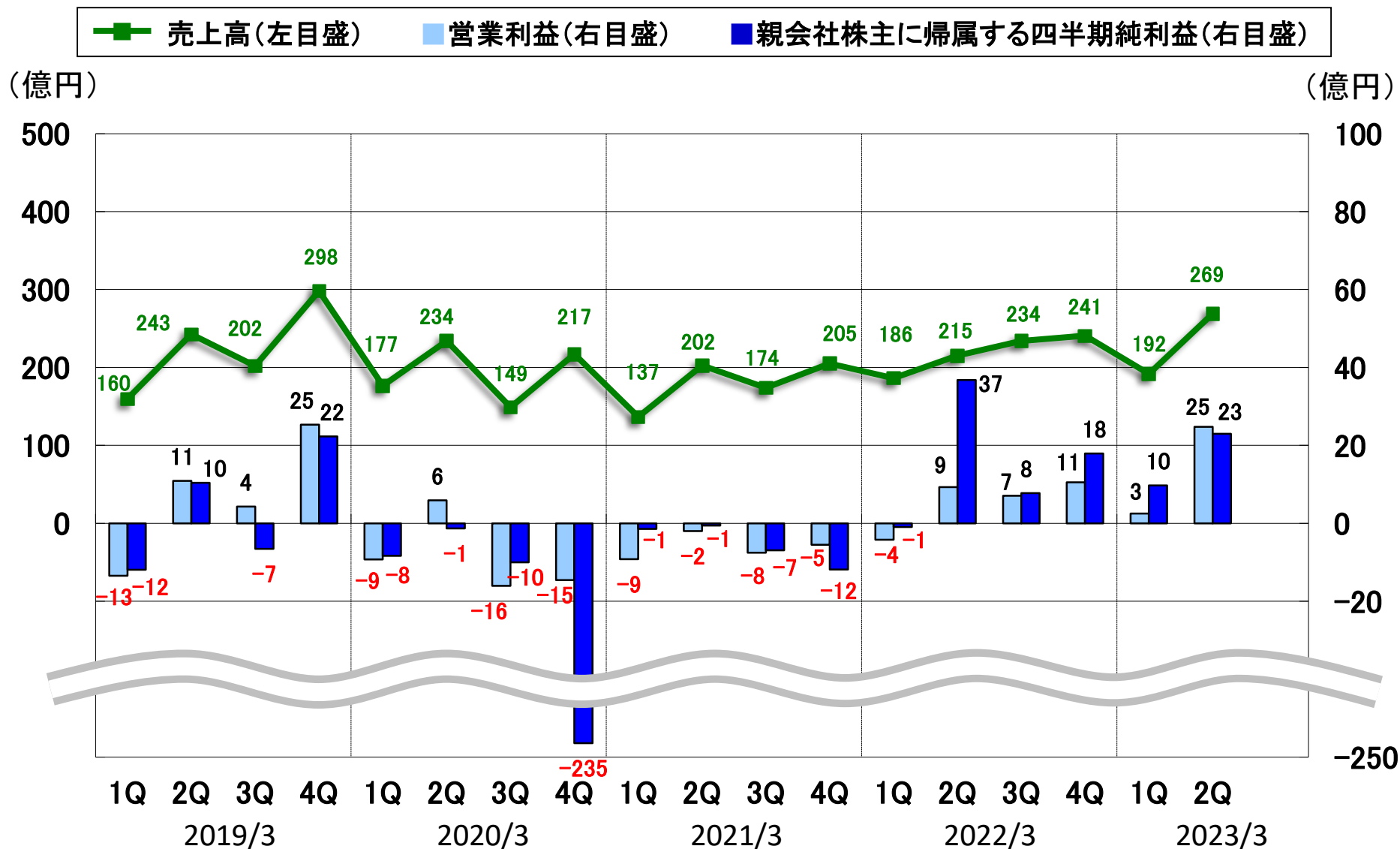
		2023/3 上期実績	2022/3 上期実績	差額	前年 同期比	2023/3 上期計画	差額	計画比
受注高		504	495	9	102%	528	△24	96%
売上高		461	401	60	115%	474	△13	97%
営業利益		27	5	22	535%	15	12	182%
経常利益		41	9	32	455%	17	24	241%
親会社株主に帰属する 四半期純利益		33	36	△3	91%	14	19	233%
平均レート(円)	US\$	133.46	110.18	/		120.00	/	
	EUR	138.79	130.97			130.00		
期末レート(円)	US\$	144.81	111.92			120.00		
	EUR	142.32	129.86			130.00		

主な資産・負債

(単位:億円)

	2Q末 2022.9.30	前期末 2022.3.31	差額
短期金融資産	610	639	△29
売上債権	177	174	3
棚卸資産	363	324	39
うち製品	153	135	18
有形固定資産	174	170	5
無形固定資産	40	39	1
その他資産	229	225	4
資産合計	1,593	1,571	22
仕入債務	179	158	21
短期借入金	8	9	△1
社債	100	100	0
長期借入金	3	4	△1
その他負債	252	267	△15
負債合計	542	537	5
純資産	1,051	1,034	17
負債・純資産合計	1,593	1,571	22

売上高・損益の推移



地域別受注高

(単位: 億円)

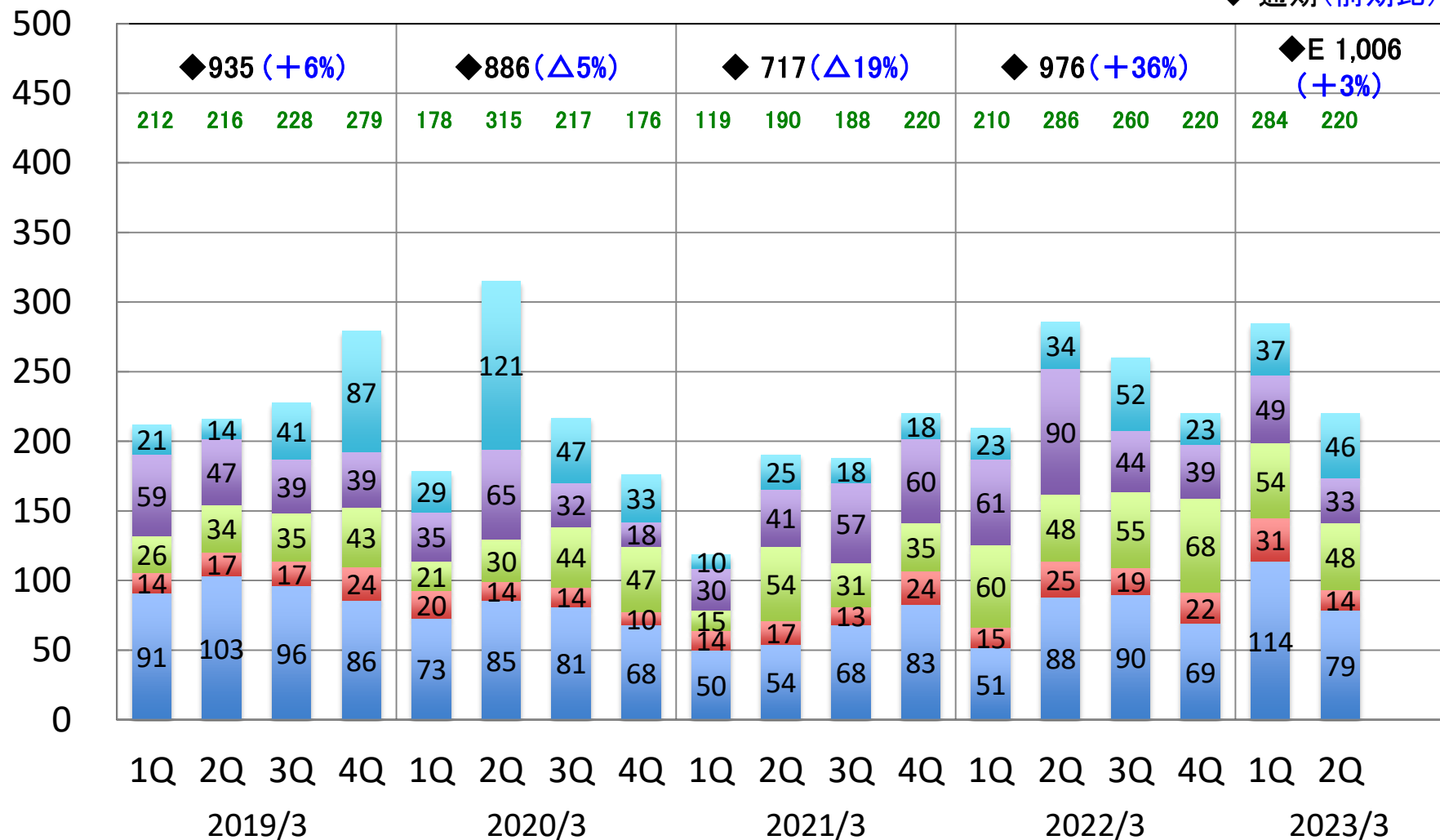
	2023/3 上期実績	2022/3 上期実績	前年 同期比
日 本	192	140	138%
北 米	45	40	113%
(百万ドル)	(34)	(37)	(93%)
欧 州	102	108	95%
(百万ユーロ)	(74)	(82)	(90%)
中 華 圏	81	151	54%
そ の 他 地 域	83	56	147%
合 計	504	495	102%

地域別受注高

■ 日本 ■ 北米 ■ 欧州 ■ 中華圏 ■ その他地域

(億円)

◆ 通期(前期比)



品目別受注高

(単位：億円)

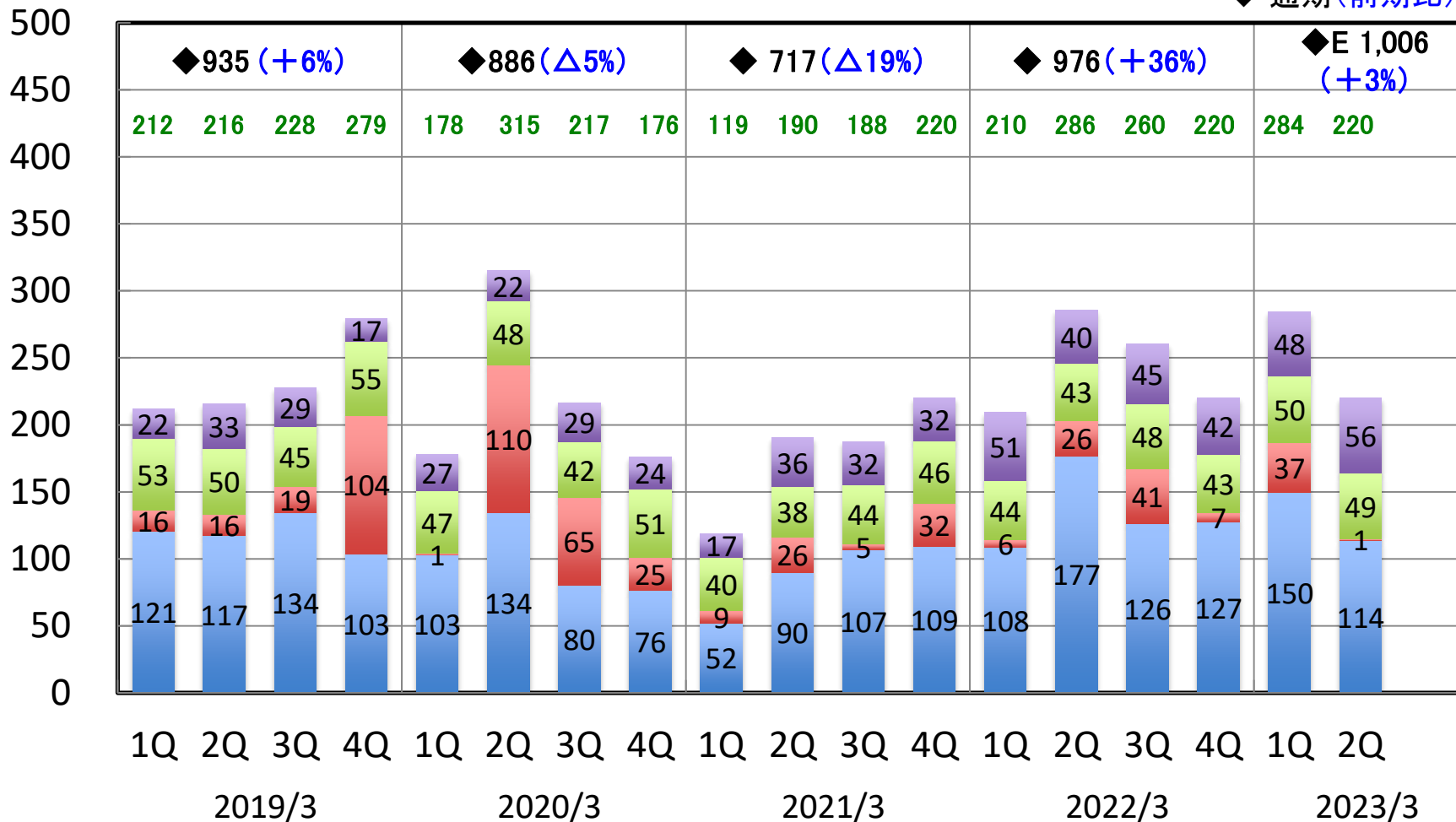
	2023/3 上期実績	2022/3 上期実績	前年 同期比
枚葉機	264	285	92%
輪転機・証券印刷機	38	32	117%
中古機・部品修理	99	87	115%
DPS・PE・その他	104	91	114%
合計	504	495	102%

品目別受注高

■ 枚葉機 ■ 輪転機・証券印刷機 ■ 中古・部品修理 ■ DPS・PE・その他

(億円)

◆ 通期(前期比)



地域別売上高

(単位：億円)

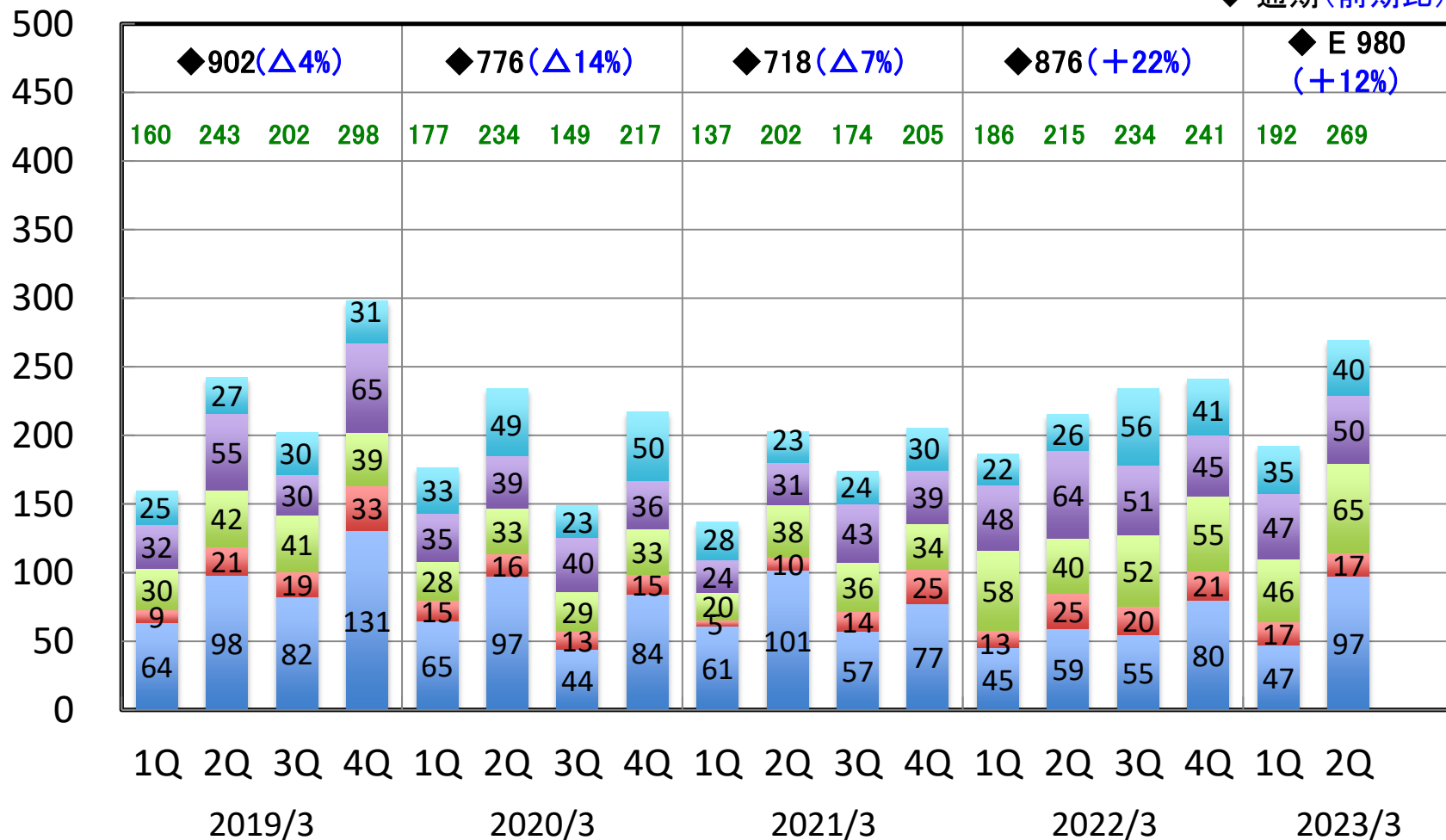
	2023/3 上期実績	2022/3 上期実績	前年 同期比
日 本	144	105	138%
北 米	34	38	89%
(百万ドル)	(25)	(34)	(74%)
欧 州	111	98	113%
(百万ユーロ)	(80)	(75)	(107%)
中 華 圏	97	112	87%
そ の 他 地 域	74	49	153%
合 計	461	401	115%

地域別売上高



(億円)

◆ 通期(前期比)



品目別売上高

(単位: 億円)

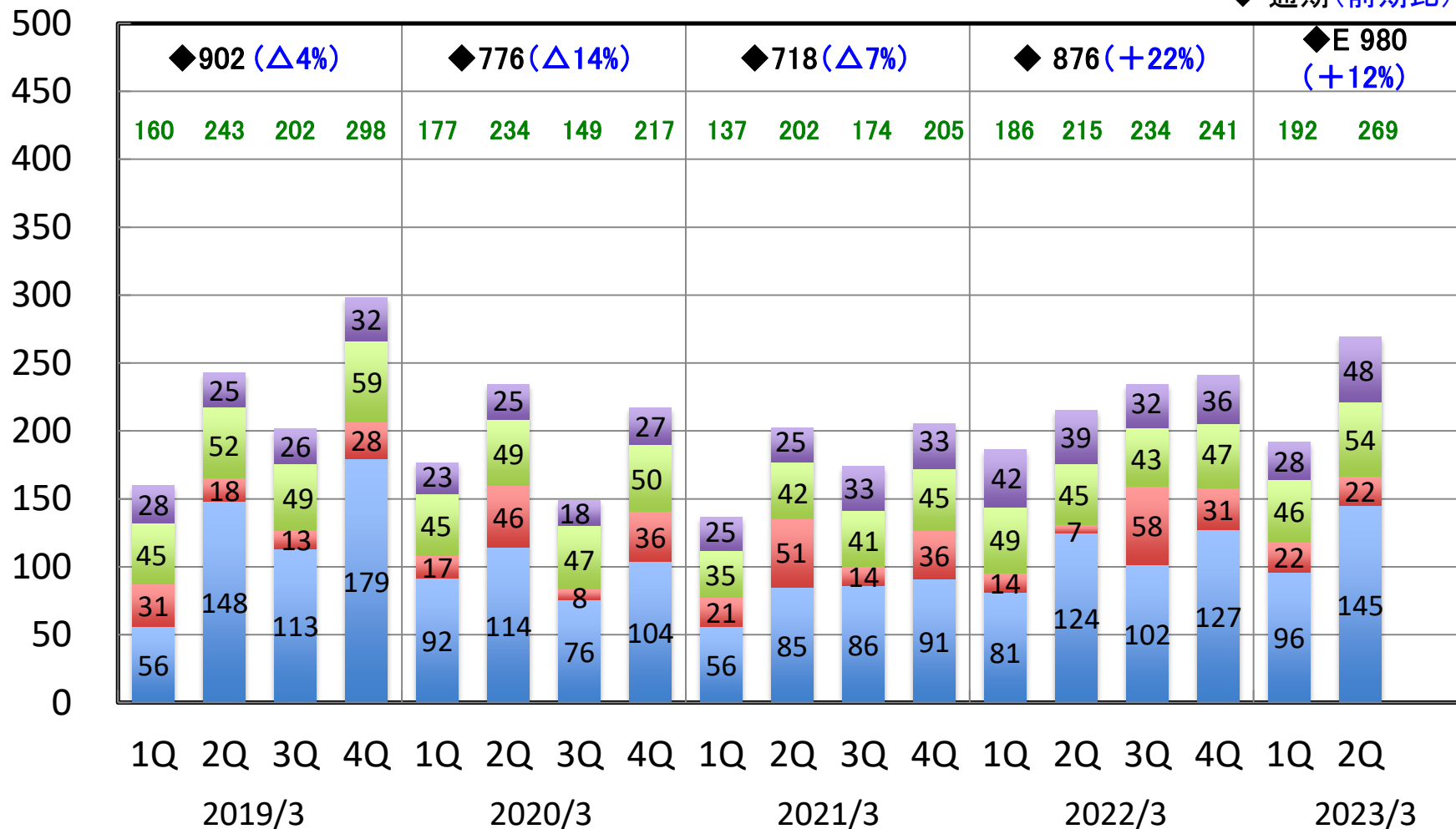
	2023/3 上期実績	2022/3 上期実績	前年 同期比
枚 葉 機	241	206	117%
輪転機・証券印刷機	44	20	218%
中古機・部品修理	100	94	107%
DPS・PE・その他	76	82	93%
合 計	461	401	115%

品目別売上高

■ 枚葉機 ■ 輪転機・証券印刷機 ■ 中古・部品修理 ■ DPS・PE・その他

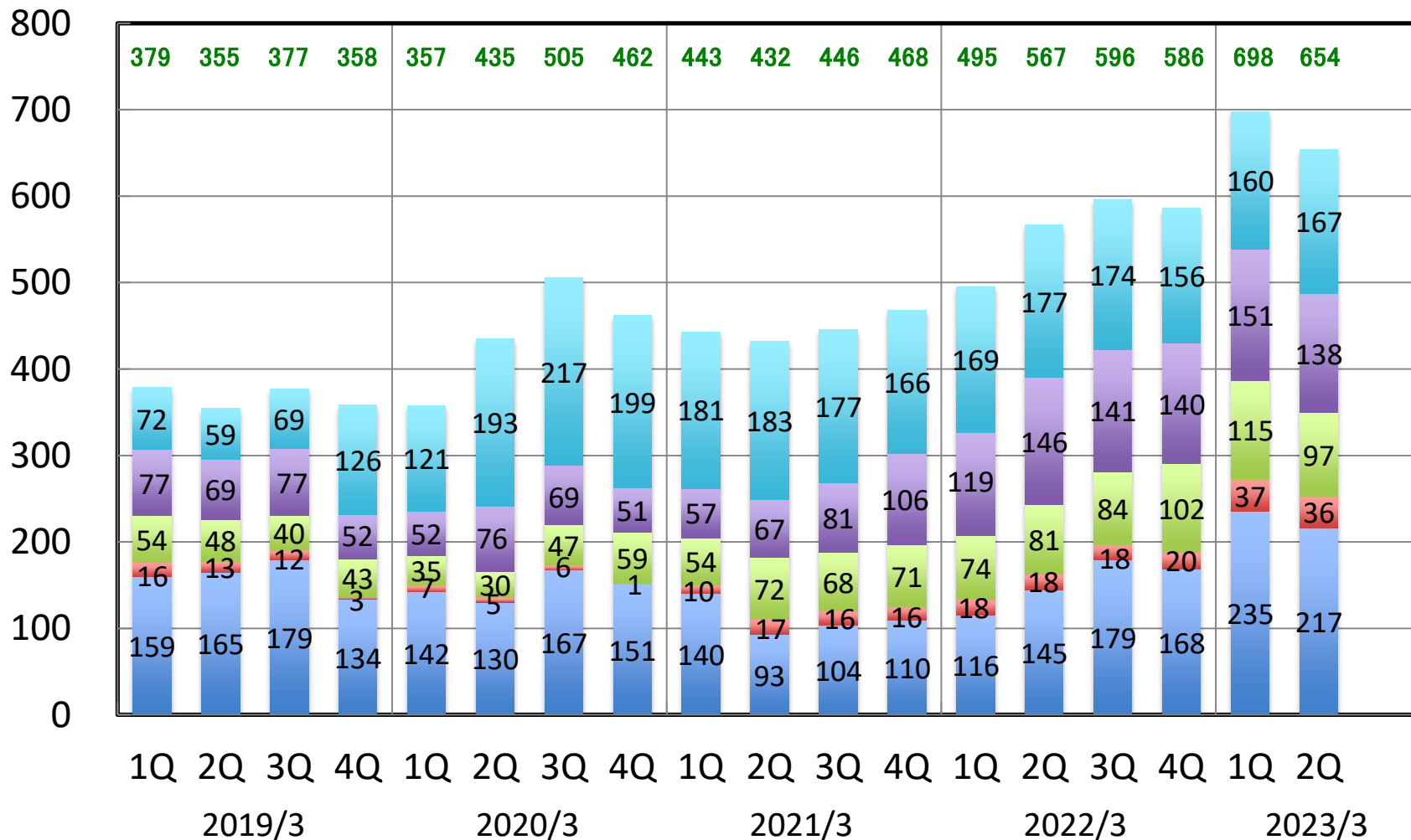
(億円)

◆ 通期(前期比)



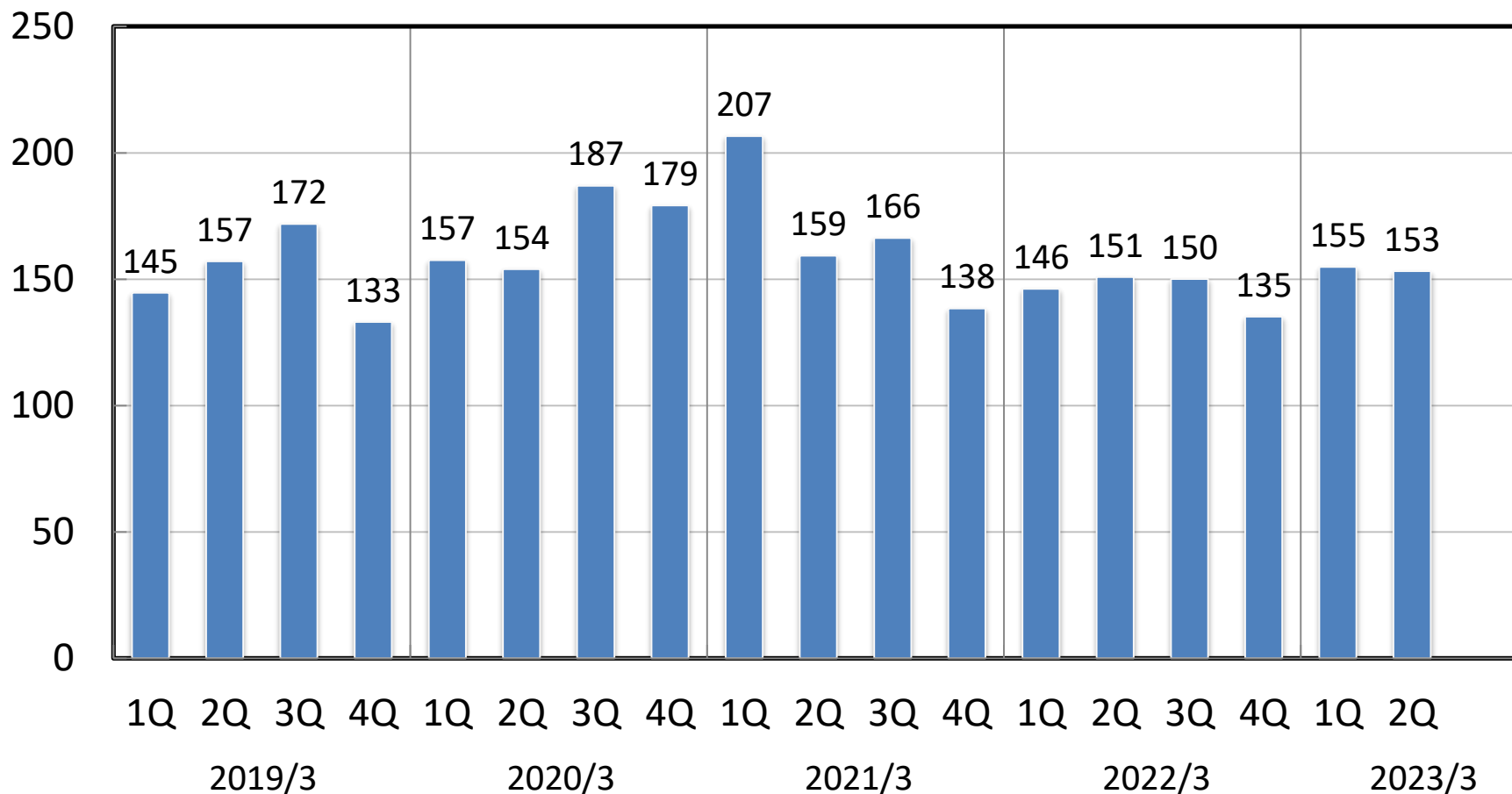
受注残高の推移

(億円)



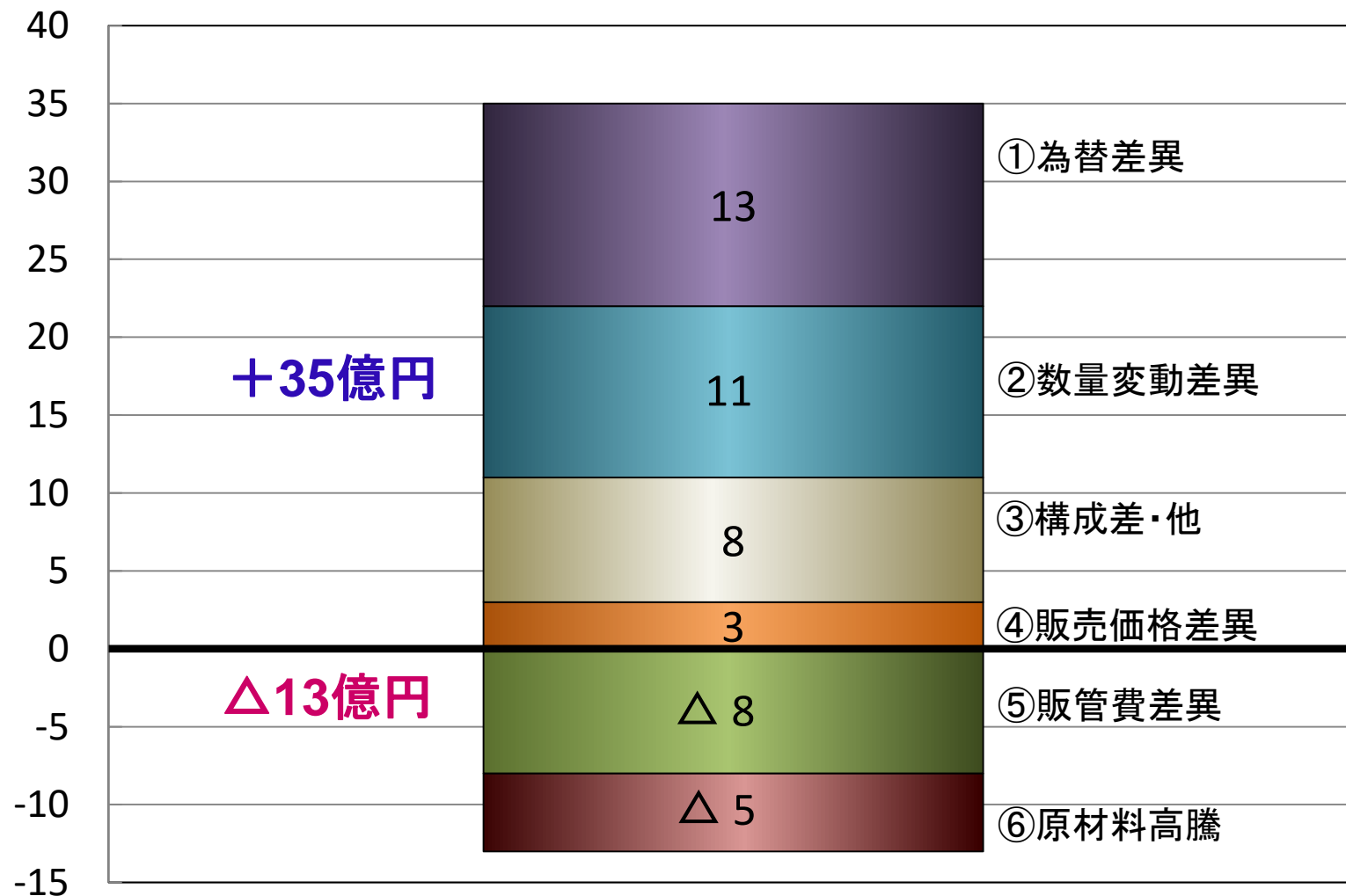
製品在庫の推移(原価ベース)

(億円)



上期営業損益の変動要因(対 前年同期比)

(億円) 合計 +22億円



業績見通し

(単位:億円)

		2023/3 上期実績	<2Q修正> 2023/3 下期計画	<2Q修正> 2023/3 通期計画	2022/3 前期実績	差額	前期比
受注高		504	502	1,006	976	30	103%
売上高		461	519	980	876	104	112%
営業利益		27	17	44	23	21	194%
経常利益		41	13	54	34	20	158%
親会社株主に帰属する 当期純利益		33	9	42	62	△20	68%
平均レート(円)	US\$	133.46	135.00	134.17	112.86	/	/
	EUR	138.79	135.00	137.04	131.01		
期末レート(円)	US\$	144.81	135.00	135.00	122.39		
	EUR	142.32	135.00	135.00	136.70		

地域別受注高 予想

(単位: 億円)

	2023/3 上期実績	<2Q修正> 2023/3 下期計画	<2Q修正> 2023/3 通期計画	2022/3 前期実績	差額	前期比
日 本	192	126	318	299	19	106%
北 米	45	47	92	82	11	113%
(百万ドル)	(34)	(35)	(69)	(72)	(△3)	(95%)
欧 州	102	85	187	230	△43	82%
(百万ユーロ)	(74)	(63)	(137)	(176)	(△39)	(78%)
中 華 圏	81	102	183	234	△51	78%
そ の 他 地 域	83	142	225	131	94	171%
合 計	504	502	1,006	976	30	103%

品目別受注高 予想

(単位:億円)

	2023/3 上期実績	<2Q修正> 2023/3 下期計画	<2Q修正> 2023/3 通期計画	2022/3 前期実績	差額	前期比
枚 葉 機	264	203	466	539	△73	87%
輪転機・証券印刷機	38	106	144	81	63	178%
中古機・部品修理	99	95	195	178	17	110%
DPS・PE・その他	104	98	201	178	23	113%
合 計	504	502	1,006	976	30	103%

地域別売上高 予想

(単位:億円)

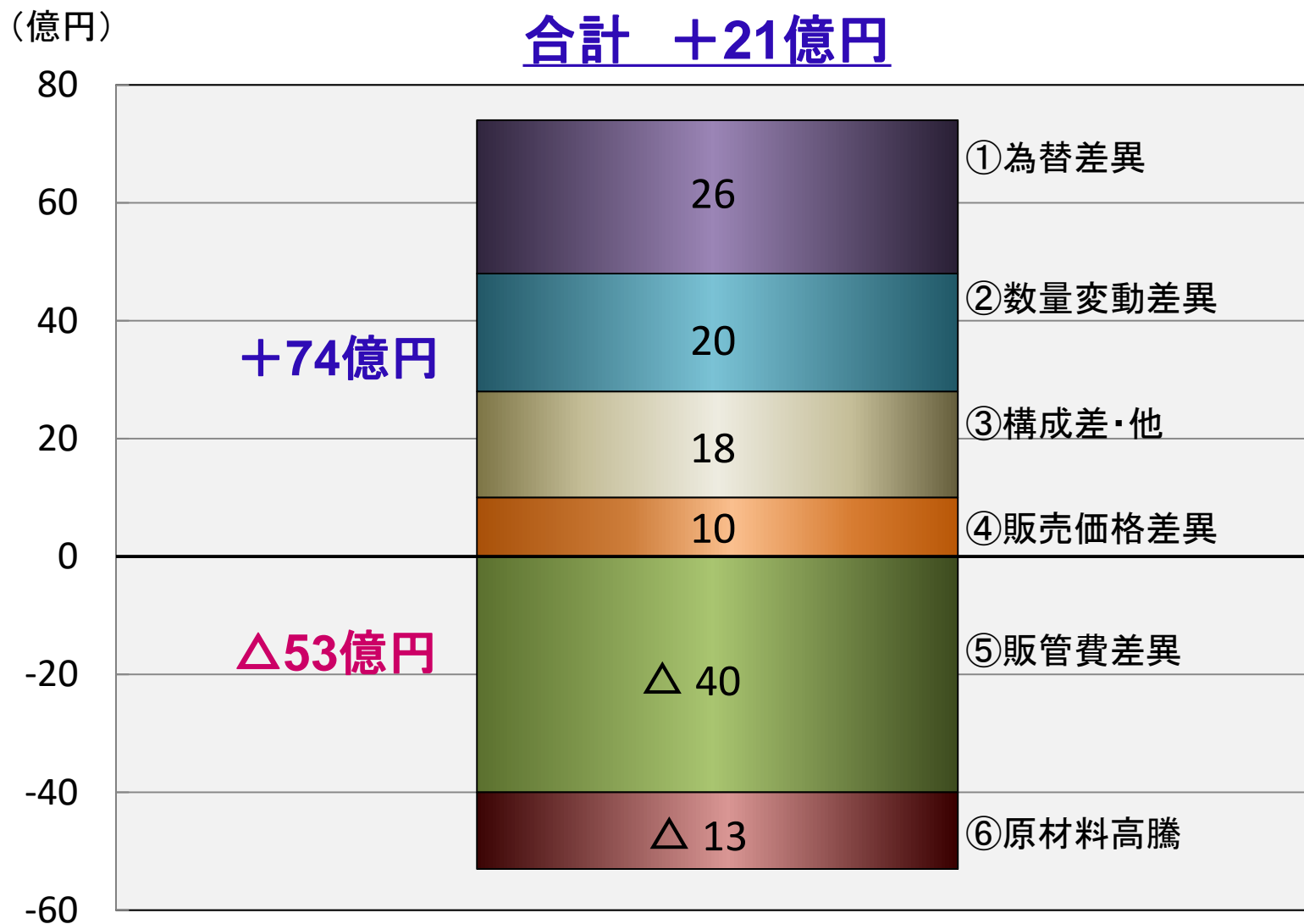
	2023/3 上期実績	<2Q修正> 2023/3 下期計画	<2Q修正> 2023/3 通期計画	2022/3 前期実績	差額	前期比
日 本	144	177	321	240	81	134%
北 米	34	49	82	79	3	104%
(百万ドル)	(25)	(36)	(61)	(70)	(△9)	(88%)
欧 州	111	112	223	205	19	109%
(百万ユーロ)	(80)	(83)	(163)	(156)	(7)	(104%)
中 華 圏	97	76	173	208	△35	83%
そ の 他 地 域	74	106	181	145	36	125%
合 計	461	519	980	876	104	112%

品目別売上高 予想

(単位:億円)

	2023/3 上期実績	<2Q修正> 2023/3 下期計画	<2Q修正> 2023/3 通期計画	2022/3 前期実績	差額	前期比
枚 葉 機	241	272	513	435	78	118%
輪転機・証券印刷機	44	66	110	109	2	101%
中古機・部品修理	100	92	193	184	9	105%
DPS・PE・その他	76	89	164	149	15	110%
合 計	461	519	980	876	104	112%

通期営業損益(予想)の変動要因(対前期比)



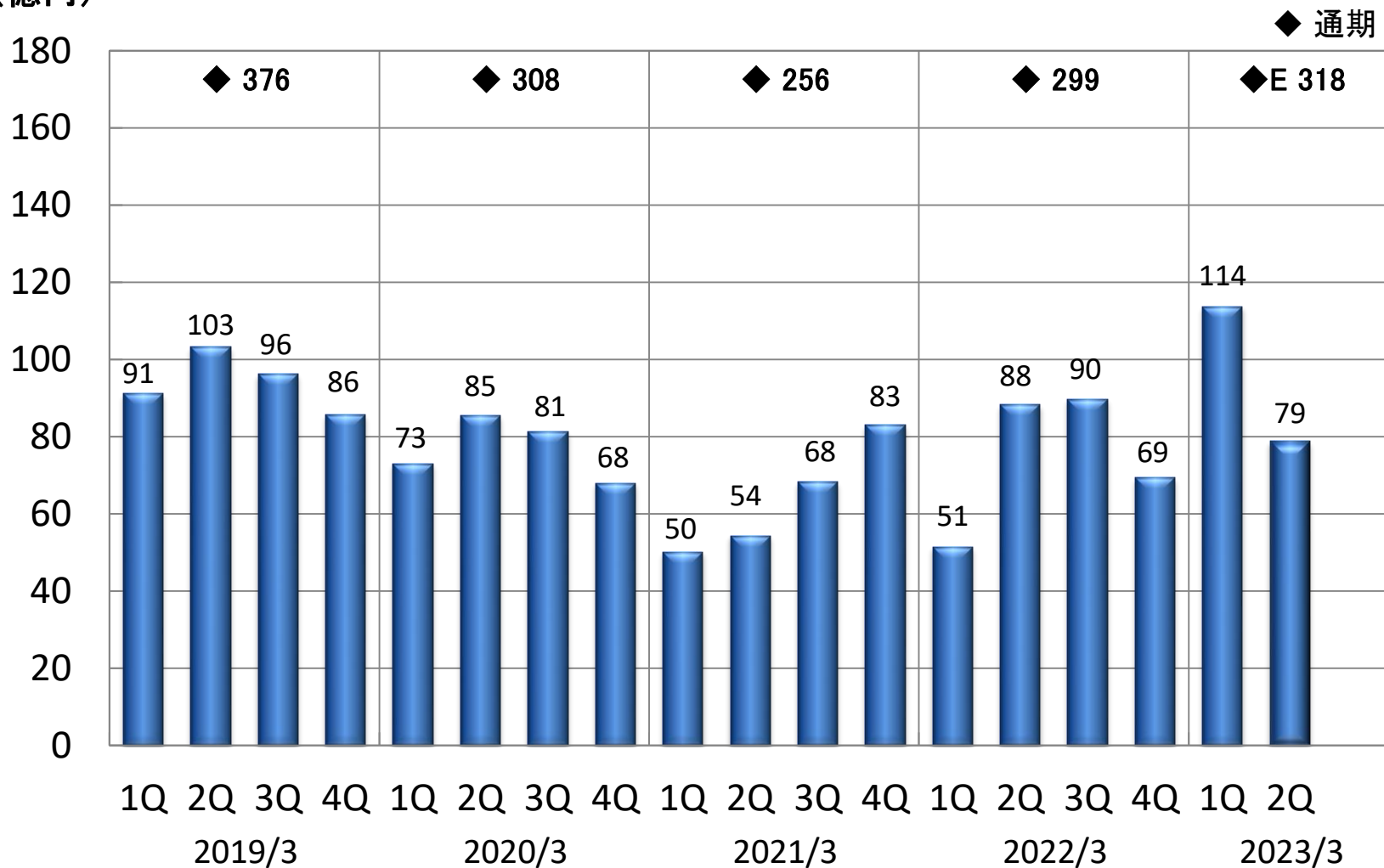
設備投資・減価償却費・開発費

(単位:百万円)

	2019/3	2020/3	2021/3	2022/3	2023/3 上期	2023/3 予想
従業員数(名)	2,335	2,363	2,686	2,613	2,622	2,640
人件費	20,908	20,386	20,199	22,122	11,539	23,500
設備投資額	1,334	1,678	1,394	2,371	1,015	2,500
減価償却費	1,965	2,304	1,604	1,877	963	2,000
研究開発費	4,740	4,899	4,002	4,050	1,876	4,100
(売上高比)	(5.3%)	(6.3%)	(5.6%)	(4.6%)	(4.1%)	(4.2%)

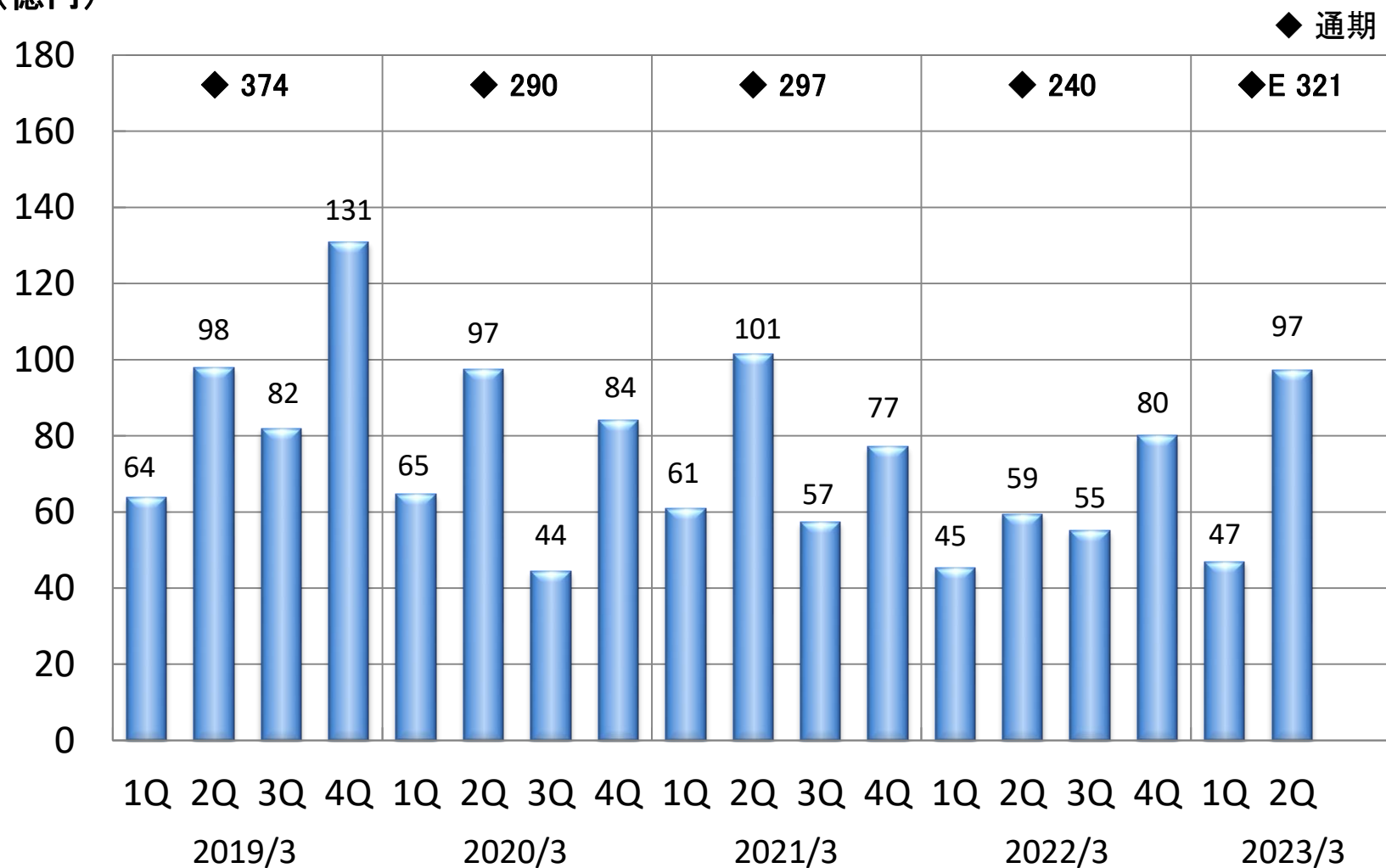
日本 受注高

(億円)



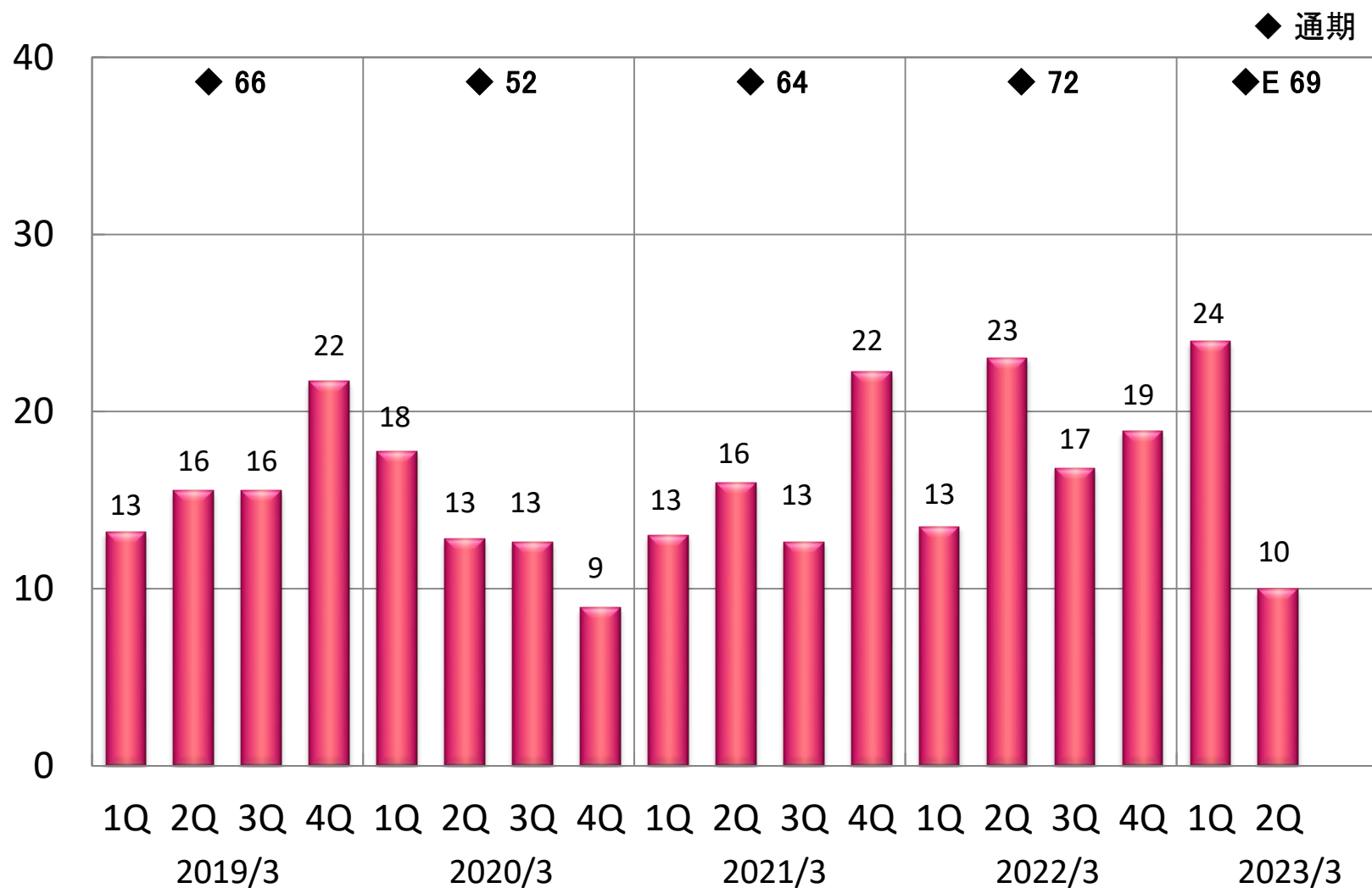
日本売上高

(億円)



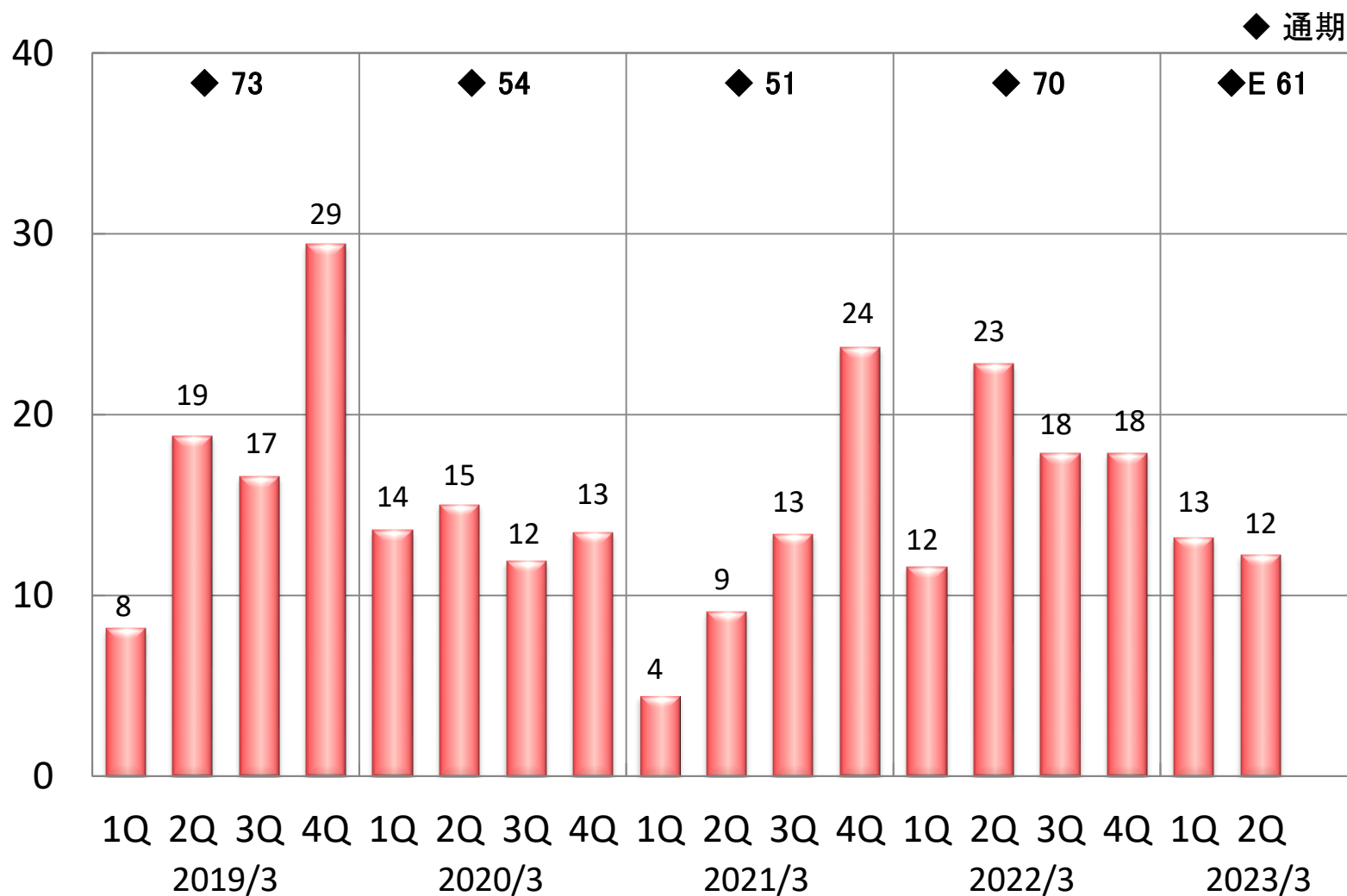
北米 受注高

(million \$)



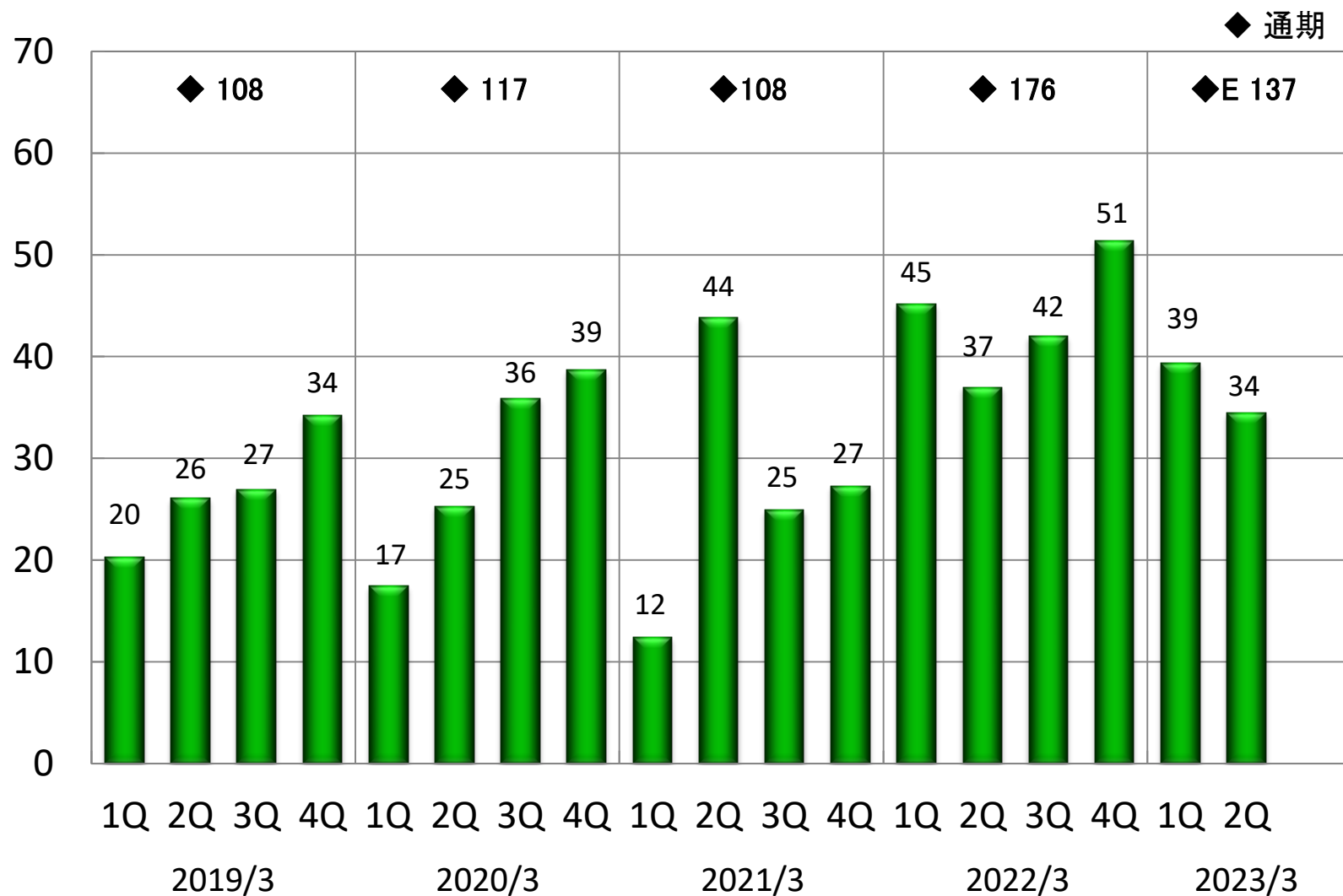
北米売上高

(million \$)



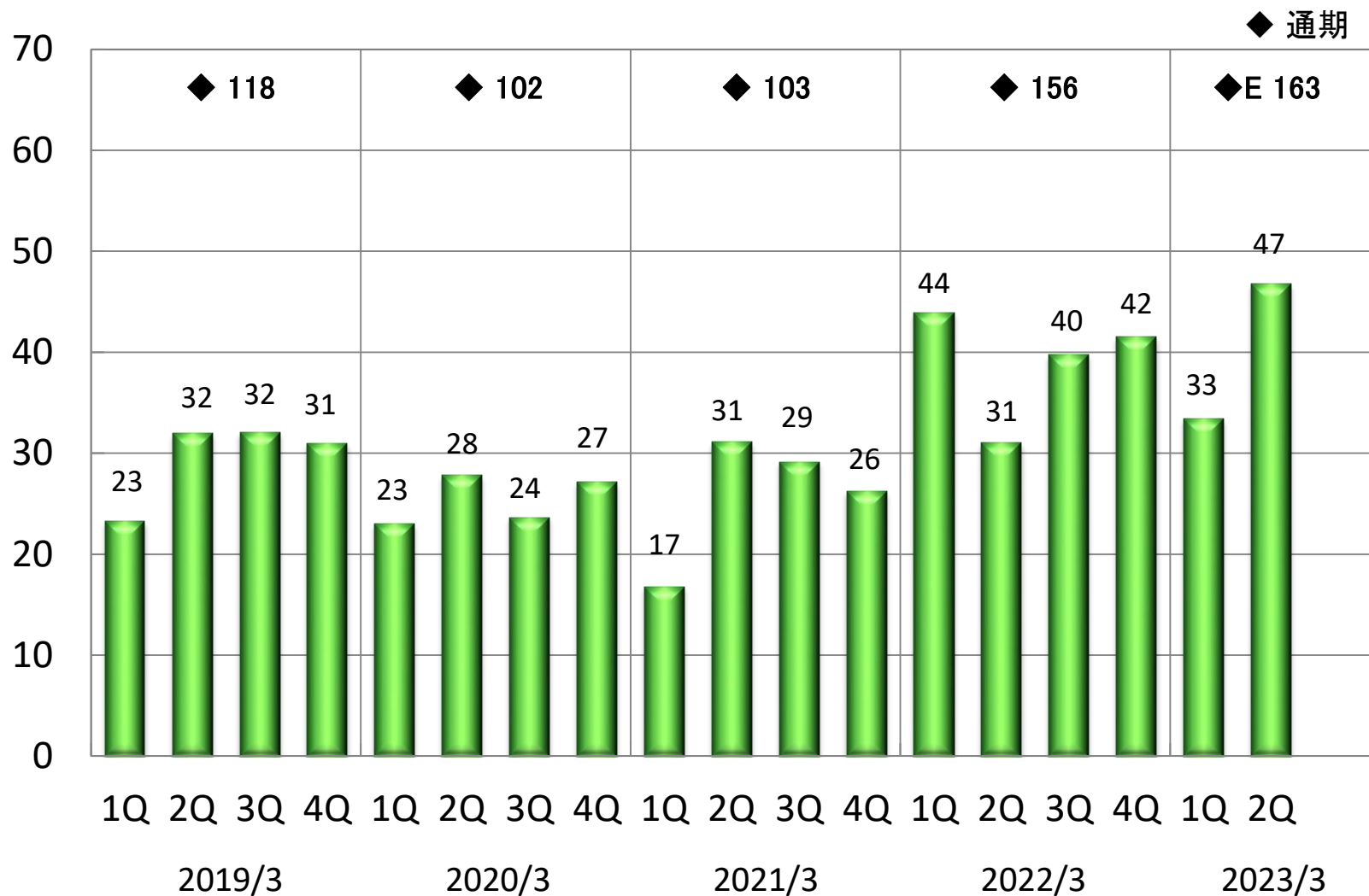
欧州 受注高

(million EUR)



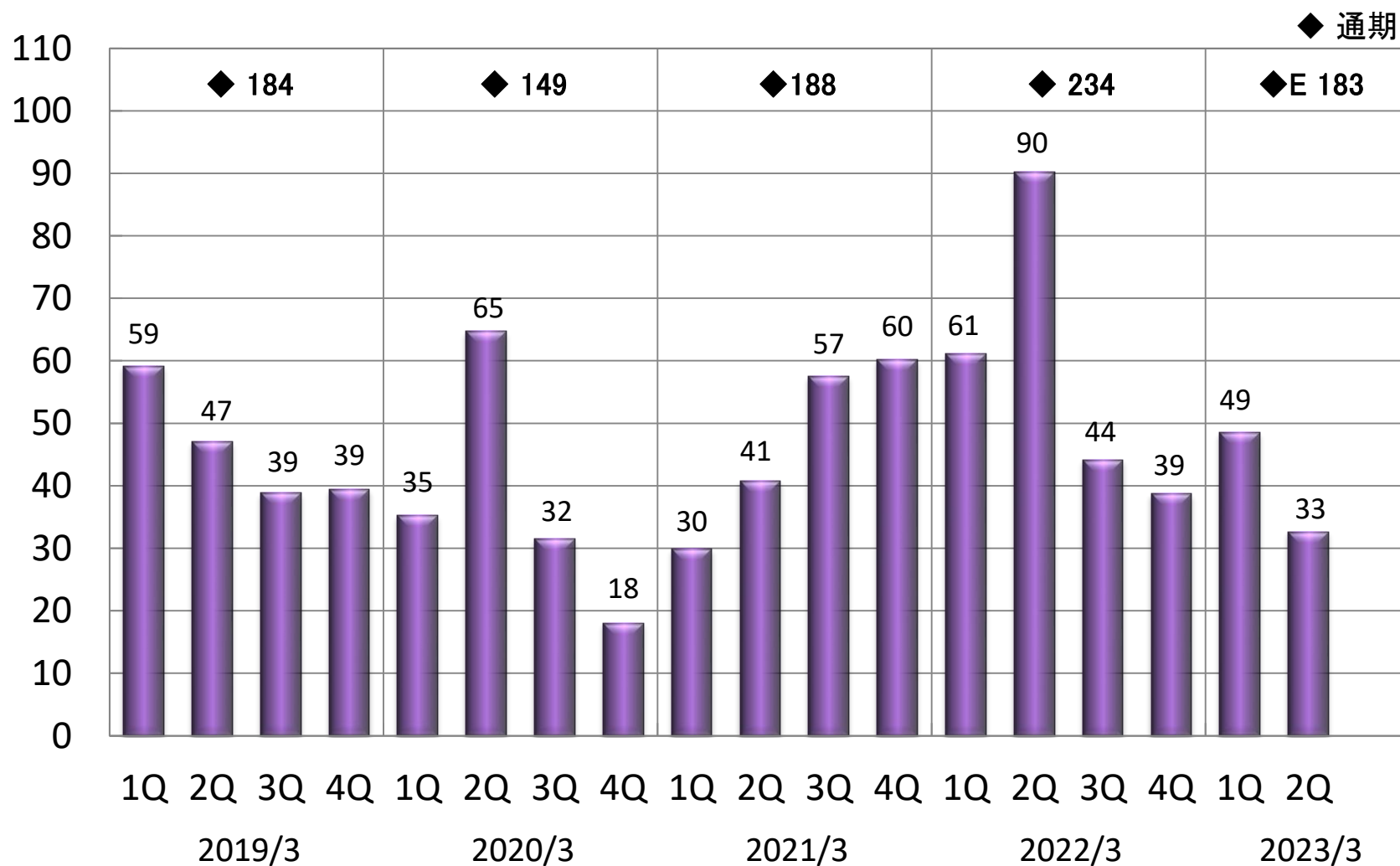
欧州売上高

(million EUR)



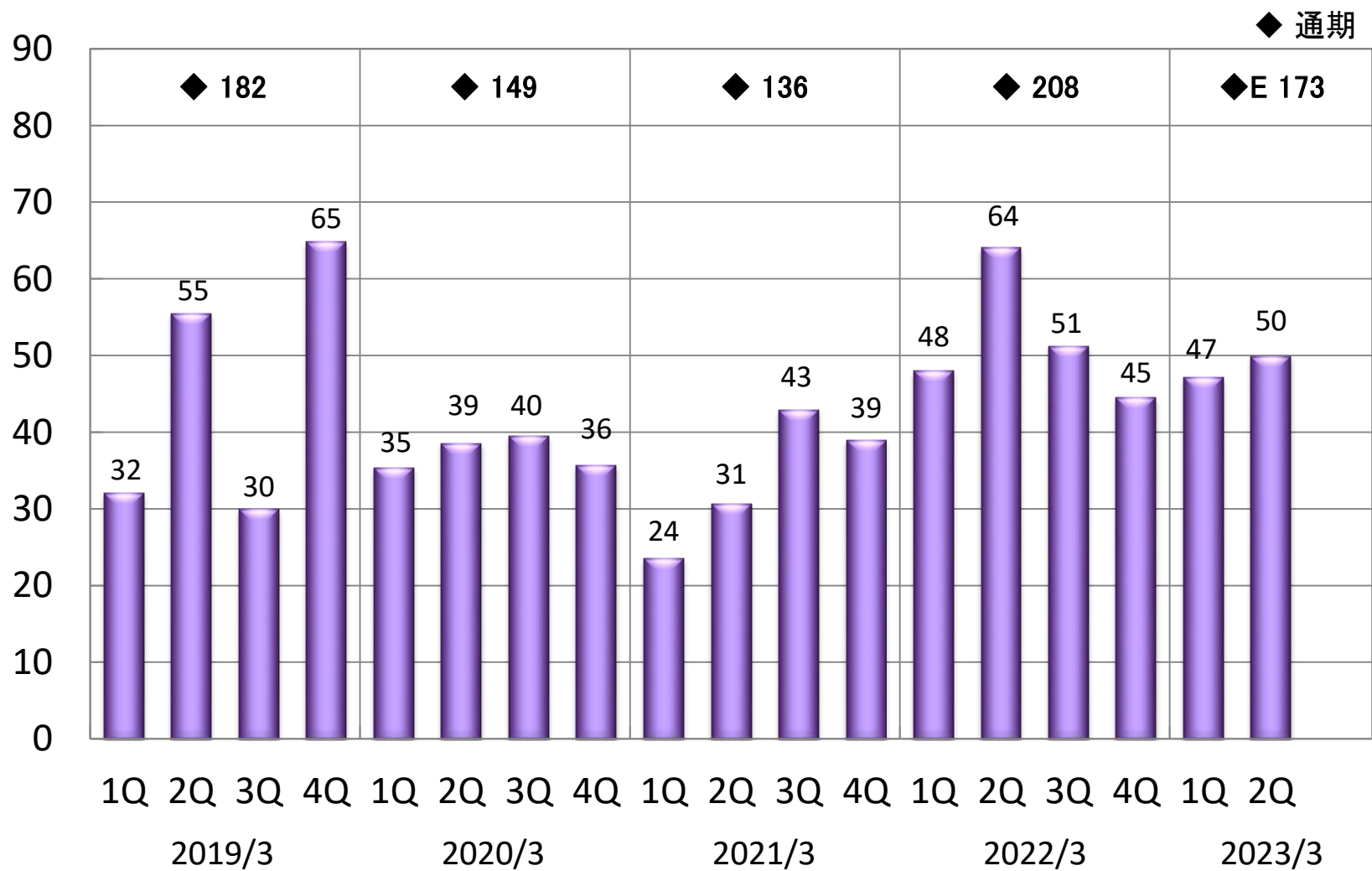
中華圏 受注高

(億円)



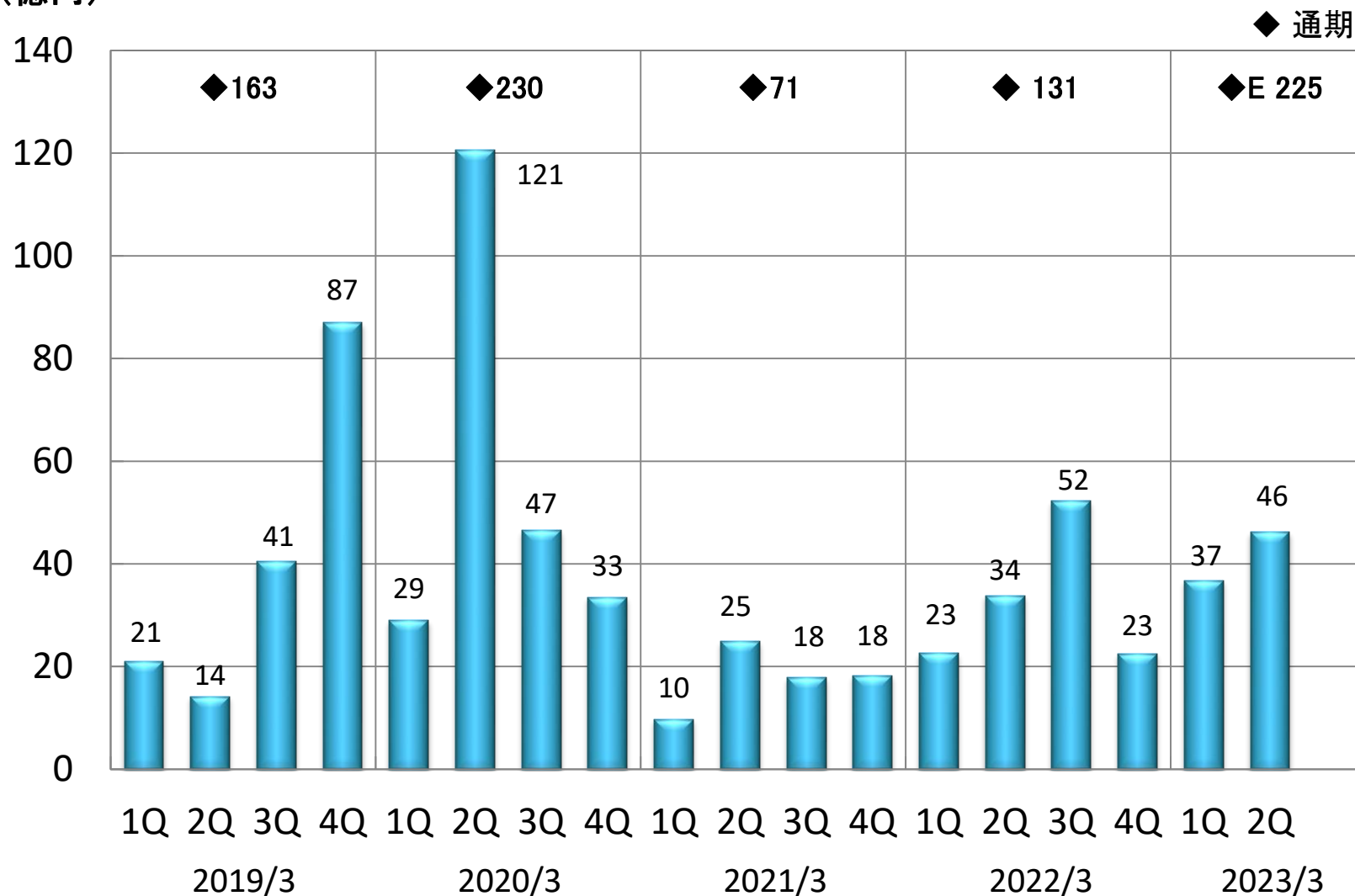
中華圏売上高

(億円)



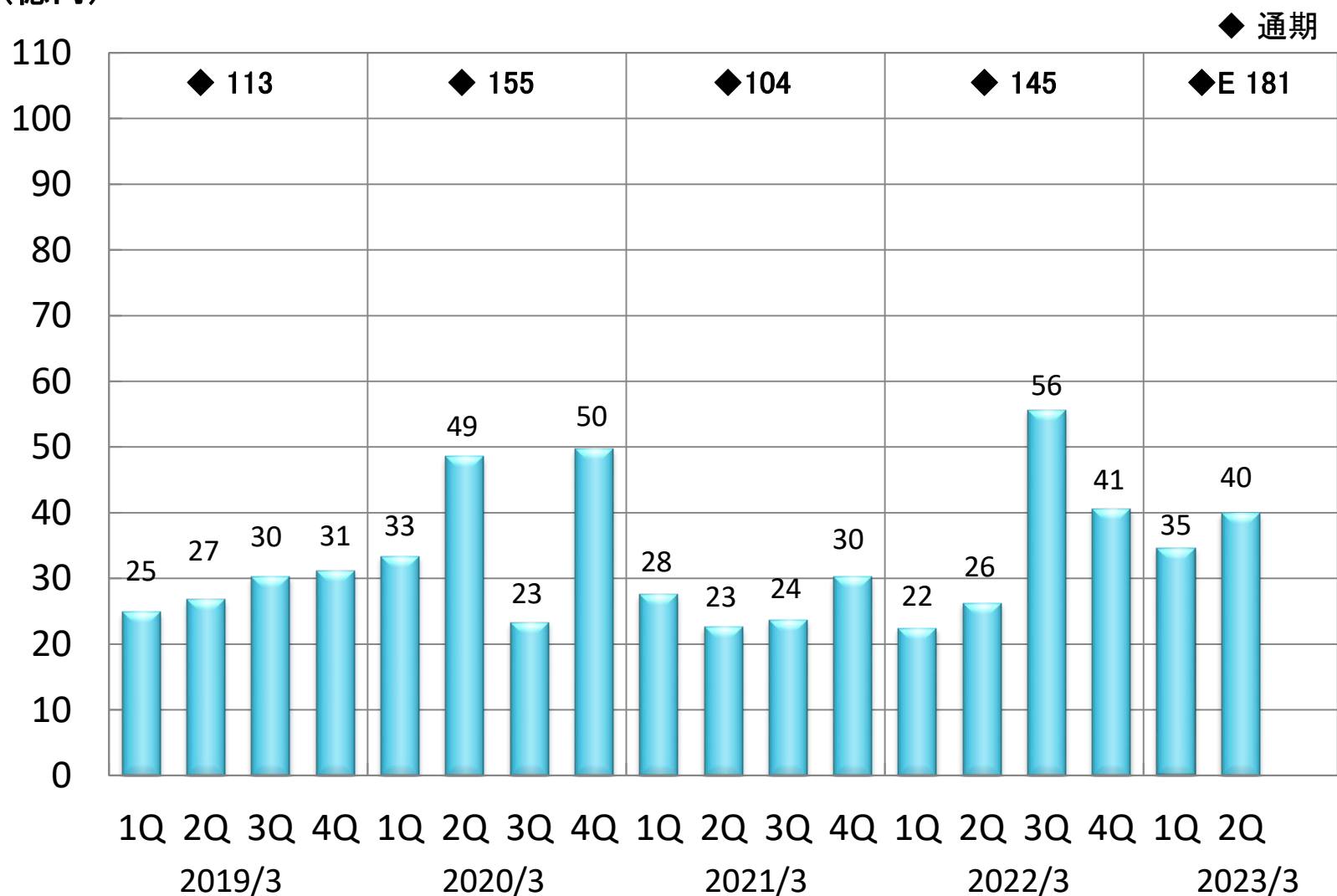
その他地域 受注高

(億円)



その他地域 売上高

(億円)



第77期（2023年3月期）上期経営概況



2022年11月7日

株式会社小森コーポレーション







代表取締役社長(CEO)





持田 訓







1. 77期上期実績と下期計画
 - 1)各地域市場動向
 - 2)上期受注売上結果と下期計画

2. 77期重点課題の進捗状況
 - 1)グローバルパーツセンター竣工
 - 2)東京カメラ部2022写真展 出展
 - 3)IGAS 2022 出展
 - 4)オフセット事業進捗
 - 5)証印事業進捗
 - 6)PE事業進捗

3. ESG(SDGs)対応（社会・環境への取り組み）
 - 1)統合報告書の発行について

地域	77期上期（2023年3月期）の状況	下期及び今後の見通し
日本	 <ul style="list-style-type: none"> • コロナ感染第7波の影響で旅行・イベント・飲食での印刷物が更に激減し売上減少傾向が継続 • エネルギー源が高騰した影響で生産性、効率化に向けた設備検討が増加し業界の二極化拡大 • 補助金を活用した設備投資が活況で市場シェアUPを期待 	 <ul style="list-style-type: none"> • ロシア・ウクライナ紛争の長期化及び材料の高騰で原価が上がり廃業・倒産・M&Aが更に加速（版材・インキは高止まり、紙は10月から値上げ） • 入国規制緩和及びGOTOトラベルで旅行会社、イベント会社、お土産関連の発注増を期待 • 設備投資はビジネスが動いている主要都市に絞られ、地域の二極化が進み印刷業界でのDX進む
北米	 <ul style="list-style-type: none"> • 海外生産から国内回帰が進むパッケージ印刷向け設備需要は堅調 	 <ul style="list-style-type: none"> • GDP成長予測は1%に低迷となり印刷業は供給制約により商業印刷の出荷に影響 • 商業印刷会社の設備投資計画の遅延により受注計画の遅れにより減速する恐れ
欧州	 <ul style="list-style-type: none"> • ウクライナ戦争によるエネルギーなど急速なインフレ進行並びにサプライチェーン不安定化により景況感急速に悪化 	 <ul style="list-style-type: none"> • エネルギー需要が高まる冬場に向けてロシア情勢の先行き不透明で景気低迷が深刻化するリスクあり • 売上についてはキャンセル、遅延等の動きは見受けられないが、引き続き注視 • 受注については大幅に下降し予断を許さない状況

地域	77期上期（2023年3月期）の状況	下期及び今後の見通し
<p>中華圏</p>	 <ul style="list-style-type: none"> 印刷会社の受注減少 国内外の移動制限で納期通りの納品が困難 物流、資材コスト上昇で印刷会社の利益率悪化 商業印刷は商業活動、イベントの停滞でW2P、中小企業の投資マインドは冷え込み 書籍印刷は政府系書籍などは堅調だがコロナ制限で生産が遅延し資材の高騰で利益圧迫 パッケージ印刷は一般消費財向け包装は停滞、一部の食品、タバコ、医薬品関連は安定、大手パッケージ企業の投資計画は堅調 	 <ul style="list-style-type: none"> 10月中は国内移動規制が大変厳しく、特に北京・天津入境は国内移動であっても隔離指定あり、営業訪問や物流手配もままならない状況 商業印刷は通常は繁忙期である9～10月の印刷受注量が例年の半分以下で下期も厳しい状況 党大会後に景気刺激策が出されるとの見通しだが、実行にはある程度時間が掛かる見込み 勝ち組会社は引き続き生産性拡張のための大型機、特殊機商談があるが商業印刷停滞の中で需要回復が遅れ
<p>その他</p>	 <p>【インド】</p> <ul style="list-style-type: none"> パッケージ需要が底堅い傾向 学校・公共機関の再開とフェスティバルシーズンに向けて停滞していた出版・商業印刷の需要増 <p>【韓国】</p> <ul style="list-style-type: none"> パッケージセグメントでの受注が堅調 オペレーター不足で自動化・省力化仕様へのニーズが顕著 <p>【アジアパシフィック】</p> <ul style="list-style-type: none"> インドネシア、マレーシア、オーストラリアなどで大型受注が目立つ一方、中小規模の印刷会社からの商談は低調 	 <p>【インド】</p> <ul style="list-style-type: none"> 出版・商業印刷の需要は継続だが今後の需要は要注視 パッケージ分野は薬品・食品系を中心に設備投資が堅調 <p>【韓国】</p> <ul style="list-style-type: none"> 欧米の景気後退懸念から、国内景気観測は悲観的 オペレーター不足で自動化・省力化仕様のニーズが高い <p>【アジアパシフィック】</p> <ul style="list-style-type: none"> ASEAN諸国の内需は堅調 先進国景気減速により外国輸出向けの製品で生産調整が発生 設備投資の潜在ニーズはあるが設備できる会社とそうでない会社で2極化

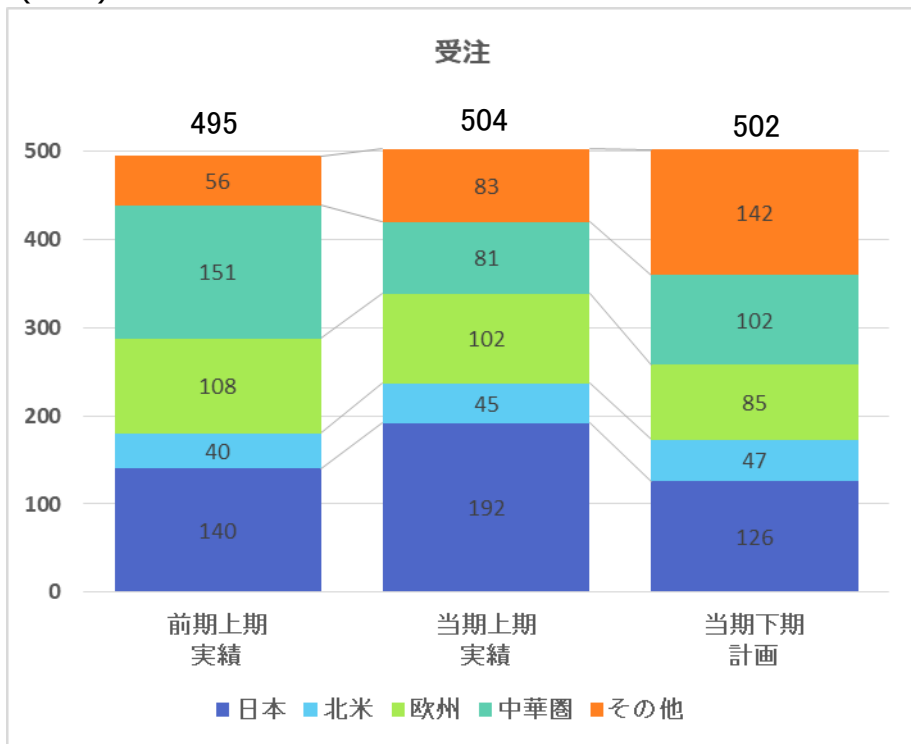
事業	77期上期（2023年3月期）の状況	下期及び今後の見通し
証印事業	 <ul style="list-style-type: none"> 紙幣印刷への需要は引き続き堅調で、各国で入替や新工場建設のプロジェクトが進行 コロナ感染症で遅延していた入札プロセスが再開 コロナ感染症での搬入遅延も入国規制の緩和で確実に搬入・検収が進行 日本の入国規制も緩和され、トレーニングや出荷前検査に来日も増加 	 <ul style="list-style-type: none"> アジアを中心に設備投資は底堅い 新工場建設を計画している国が複数あり紙幣需要は継続 24時間フル稼働のための機械納入後のヘルスチェック、予防保全、操作指導などの要請増加
DPS事業	 <ul style="list-style-type: none"> デジタル機市場はコロナ禍により一旦出荷実績が落ち込んだが2020年を底に回復基調で前年比15%程度の伸び US市場を初め印刷物に対する小ロット/短納期対応への要望が強く人材の高齢化、人材不足によりデジタル印刷機の需要は堅調。 	 <ul style="list-style-type: none"> B2デジタル市場は今後5年間はCAGR10%程度の市場の伸びを期待 小ロット/短納期、省人化、スキルレスへの対応として最大市場である米国市場への販促を強化
PE事業	 <ul style="list-style-type: none"> 半導体基板(FCBGA)は引き続き活況で、真空穴埋め印刷機の引合は増加 中国ロックダウンの影響により、部材の調達が困難で納期遅れを懸念 	 <ul style="list-style-type: none"> 半導体基板(FCBGA)市場の活況は継続の見通し 脱炭素化に伴う自動車のEV化が加速しており、積層セラミックコンデンサ(MLCC)の製造が活況

◆ 上期は好調な日本市場に支えられ受注・売上共に前年比増収
 ◆ 下期も日本・アジア地域で売上の伸びが期待され増収の見通し

受注高

上期実績：504億円（前年同期比102%）
 下期計画：502億円（上期比：99.6%）

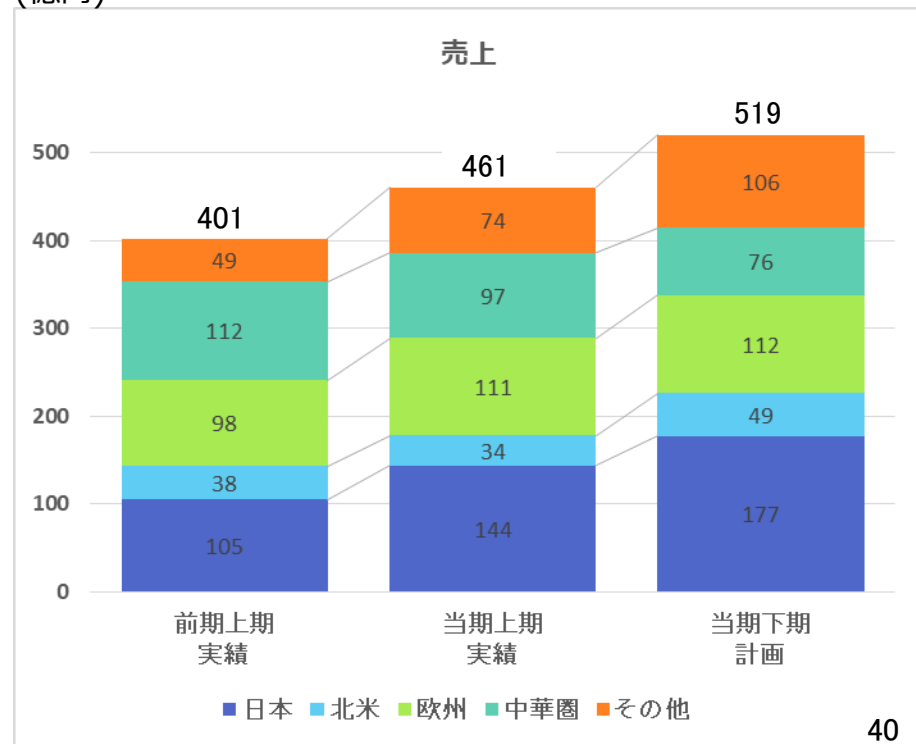
(億円)



売上高

上期実績：461億円（前年同期比115%）
 下期計画：519億円（上期比：113%）

(億円)



KOMORIのアフターサービスは『RepairからCare』へ

- KOMORIのアフターサービスは、昨年より『RepairからCare』をスローガンに設定し、従来型のオンコール対応から、事前に予防する提案型対応に変わってきております。先行する国内では、1件1億円を上回る大型提案も見られ、着実に収益を伸ばしています。今後、海外、並びに証印事業での展開を見据え、ソフト面では技術者の育成、クラウドによる情報共有を進め、またハード面では、この8月、つくばプラント敷地内に小森グローバルパーツセンターを竣工させました。
- 在庫のリアルタイム可視化による部品の安定供給、在庫管理・導線把握のシステム化による部品提供リードタイムの短縮、また、つくばプラント内の製造サイドとの連携がより強化され、対応力の大幅な向上を図ります。



インプレミアNS40で実現する「4億画素写真」の世界

- インプレミアNS40は、これまでKOMORIがオフセットで培った技術を余すことなく発揮した最新鋭のデジタル印刷機です。毎時6,500回転でB1サイズへの印刷が可能で、今後も成長が見込まれる多品種中小ロット、即納が求められるパッケージやディスプレイなどのジョブで圧倒的な生産性・収益性を発揮します。
- 今回（2022年9月）、東京カメラ部とのコラボレーション企画が実現し、『東京カメラ部2022写真展』（4日間の来場者数:13,357人）にインプレミアNS40で印刷した作品が展示されました。本企画では、同部のMisaki Nagao氏、Yoshikazu Sobukawa氏により、1億画素のデジタルカメラで撮影された色彩豊かな風景を、300PPIの高解像度を維持したまま印刷しました。さらに、4億画素の写真を、B1サイズ4枚を組み合わせたB四倍版の大型作品として初披露しました。来場された多くの方々から高い評価を頂き、今後予想される新しい芸術の分野においても、確かな可能性を感じております。



インプレミアNS40

CONNECTED AUTOMATION - 生産革新への扉 -



- 「印刷」という仕事は、分業制で営まれてきた歴史的背景から、多くの工程から成り立っています。現在では、自動化、省力化、ロボティクスの活用により、各工程の生産性を向上できるようになりました。しかし、個々の生産プロセスはアナログに管理されているため、各工程が分断されています。デジタル化により生産工程全体をつなぐことで、生産効率の改善・コストを見える化し、収益性向上を図ることができます。このように、印刷現場のDX（デジタルトランスフォーメーション）による生産革新を起こすことが**コネクテッド・オートメーション**の考え方です。

2つの生産革新ソリューションを展示

コマーシャルソリューション

- 世界最高クラスのROIを提供する印刷機『リスロンG37Pアドバンス』の**自動運転による両面ワンパス印刷**と、後加工の折りや製本までのロジスティクス(無人搬送車による自動運搬)による**一気通貫で革新的な自動化**を披露します。



リスロンG37Pアドバンス



SLIM AGV



MBO CoBo-Stack

パッケージソリューション

- SDGsへの対応を強化した最新のアドバンス機にて、CMYK + オレンジ、グリーン、バイオレットの7色で特色領域の色を再現する**スマートカラー**をご紹介します。色替えが不要になることで、準備時間の短縮と資材のムダ削減を実現し、環境問題への対応を可能にします。さらに、メイクレディ時間を最小化するための新技術や、ダブルコーターによる新たな高付加価値印刷を提案します。

オフセット事業：国内で進めるコンサル営業と好調なインド市場

コロナ禍明けの回復局面により、受注は趨勢的に増加基調にありますが、原料高・半導体の供給不安など不透明感も増えています。そのような環境下オフセット事業では、今上期、世界最高クラスのROI（投資収益率）を提供するリスロンアドバンスシリーズを、様々な地域・規模の顧客ニーズに応えられるよう、40インチ、44インチ、両面印刷機RPシリーズやG37Pシリーズなど水平展開を進めました。

中古機から新型機への転換が進むインド市場では、現地法人が本年開業4周年を迎え、5月に参加した第15回 Print Pack India展で2桁台数を受注するなど、しっかりとした需要を確認出来ております。

国内市場は経済活動の再開に補助金政策の後押しもあり、当社が推進するコンサルティング営業による機械導入支援も奏功して、受注or売上は好調でした。一方欧米市場は地政学リスクに端を発したインフレの影響で需要変動が見られますが、特にアメリカではアフターサービスの伸長により収益は底堅く推移しております。



証印事業：スペイン・エストニアで証印関連カンファレンスに参加

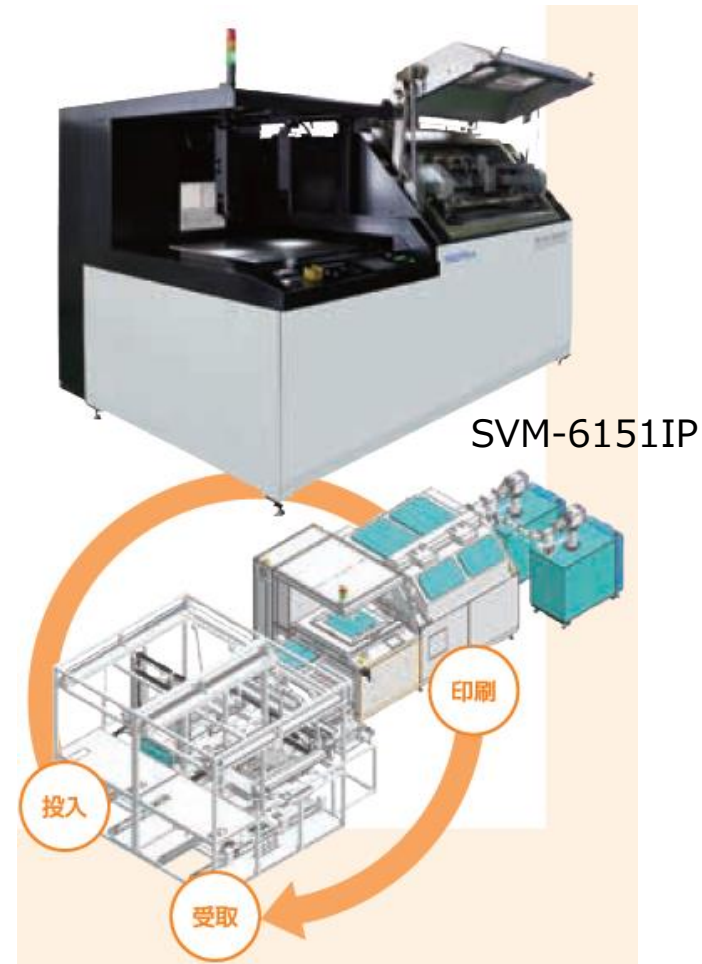
2022年5月2日から6日まで、スペイン・ポर्टアベンチュラで「**Global Currency Forum 2022**」が、6月13日から6月15日まで、エストニアの首都タリンで「**High Security Printing EMEA Tallinn**」が開催されました。世界的にパンデミックが収束しつつある中、ようやく対面で行われたカンファレンスということもあり、両カンファレンスとも多くの中央銀行、各国印刷局、サプライヤーが参加しました。

KOMORIは、英国KCT支店メンバーとともに証印営業メンバーも参加し、プレゼン実施、パネルディスカッション参加などを通し、業界でのプレゼンスをアピールしました。コロナの影響で証印関連のカンファレンスも中止になっているものが多い状況でしたが、今年に入り、再開の動きが広がっており、小森としても、今後、これまで以上に積極的に活動を進めていく予定です。



PE事業：半導体製造工程のファクトリーオートメーション対応

コロナ禍によるDX化の加速や5Gといった大容量・高速通信技術の導入に伴い、ハイエンドサーバー向けの高性能CPUやAIチップなど、パッケージ基板需要が急拡大しています。セリアでは、パッケージ基板製造で課題となるボイド（気泡）を100%排除する、**CCDカメラ付き半自動真空穴埋め印刷機「SVM-6151IP」**を開発し、国内外の半導体関連企業に納入しています。また、印刷機と前後工程機器の組合せによる全自動ライン化にも注力しており、**ファクトリーオートメーション対応**など時代の要求に適した生産設備を提供することで、今後の半導体関連業界の発展に寄与して参ります。



統合報告書2022の発行について

・中長期的な価値創造への取り組みについて、財務・非財務情報の両面から開示する事を目的に、2021年から統合報告書を発行しており、2年目となる 2022年版を10月4日に当社ホームページに掲載しました。

・報告書では、印刷関連業界の事業変化とKOMORIの対応、価値創造活動、事業戦略、およびサステナビリティへの取り組みを紹介しております。

・今後とも適時・適切な情報開示や、幅広いステークホルダーの皆様との対話を通じて、企業価値の向上に努めてまいります。



・A3版

・https://www.komori.com/ja/jp/information/download/assets/pdf/2022_komori_integrated-report_ja_a3.pdf

・A4版

・https://www.komori.com/ja/jp/information/download/assets/pdf/2022_komori_integrated-report_ja_a4.pdf



※ 当資料に含まれている業績予想等は、本資料の現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり
実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

※ 当資料では表示未満単位を四捨五入して表示しており、内訳と合計が一致しない場合があります。